

CSRの取り組み
富士電機のCSR
環境
環境マネジメント
地球温暖化防止
資源循環
事業活動における廃棄物の削減
水資源の有効利用
製品の環境負荷低減を目指した取り組み
化学物質管理
生物多様の保全
社会
ガバナンス
社員が取り組むCSR
地域貢献活動
ESGインデックス
社外からの評価
イニシアティブへの参画
ガイドライン対照表
PCB使用電気機器の判別について

関連資料
富士電機レポート2017 報告書バックナンバー 資料請求

CSRの取り組み

製品の環境負荷低減を目指した取り組み

富士電機では、設計・製造・廃棄の各段階で3R(リデュース、リユース、リサイクル)を指向した活動を推進し、事業所の「ゼロエミッション」で循環型社会形成に貢献しています。

[↓資源の有効利用・原材料の削減](#) [↓製品のライフサイクル全体での環境負荷の低減](#)

資源の有効利用・原材料の削減

富士電機は製品の設計において、資源の有効利用に配慮した製品アセスメントを実施しています。製品の設計においては、小型・軽量化・長寿命化・有害規制物質の不使用に取組むとともに、ものづくりでは、材料の有効利用、不良品の削減および梱包材の削減などに重点を置き活動しています。

省資源化の取組みでは、生産拠点での廃棄物発生量売上高原単位を管理指標に2020年までに25%削減(2006年比)を目標に活動しています。2016年度は21%削減目標に対して23.2%の削減を達成しました。

製品に関する廃棄物削減・省資源化の取り組み事例

自販機におけるReduce(リデュース:省資源)、Reuse(リユース:再利用)、Recycle(リサイクル:再利用)の3Rを積極的にすすめ、廃棄物の軽減に努めています。具体的には、製品の軽量化や小型化による省資源化、また、注意ラベルを内扉表面に直接印刷することによる、ラベル素材削減などに取り組んでいます。

また、SiC半導体では体積を従来比75%削減した小型パッケージ化を実現、また、新パワーデバイスを採用した大容量UPSでは、従来比30%の小型軽量化を実現しました。これにより、製品に使用される資源や部材を大幅に軽減しました。

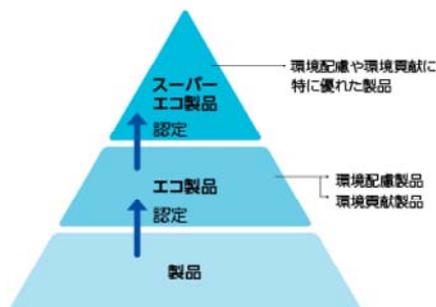
製品のライフサイクル全体での環境負荷の低減

富士電機は、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を目指し、設計時の製品アセスメント・デザインレビューにおいて、環境性能を評価に取り入れています。持続可能社会実現に資する省エネルギー性、省資源性、有害化学物質の非含有、製造工程での化学物質負荷の低減、輸送などあらゆる環境項目を評価することで、負荷低減を目指しています。

エコ製品認定制度

エネルギー効率の向上や含有化学物質の削減に配慮した「環境配慮製品」や、社会全体の環境負荷低減に寄与する「環境貢献製品」の開発に努めるとともに、それらの普及促進に取り組んでいます。

この取り組みにあたって、富士電機共通のエコ製品認定制度を定めています。製品の環境配慮を当社基準に照らして評価し、一定の基準を満たした製品を「エコ製品」、そのうち業界トップクラスの環境性能・環境貢献度を有する製品、社外で全国レベルの表彰を受けた製品を「スーパーエコ製品」として認定しています。



エコ製品の定義	
環境配慮製品	製品ライフサイクル全体で、環境への負荷低減に配慮した製品。省エネルギー、省資源化、リサイクルなど6項目の基準のうち4項目以上が従来品に比べて優れている製品。
環境貢献製品	その製品を使用することにより、環境保全に貢献する製品。自然エネルギー利用や情報通信技術の活用などで環境に貢献している製品。

2015年度のスーパーエコ製品

Topics

エアロゾル複合分析計

<日刊工業新聞社「2015年（第58回）十大新製品賞」受賞>

大気中のPM2.5をリアルタイムに成分分析。見えない実態を解明し、大気汚染防止に貢献します。

- 最先端の複数の測定方法を組み合わせた分析法により、大気中のエアロゾルの粒径、粒子数と、化学成分（硝酸塩、硫酸塩、ブラックカーボン）の質量濃度を、同時に高精度で連続測定します
- 手作業で8時間以上かかっていた成分分析はサンプリングから分析まで自動化し、15分周期でほぼリアルタイムに行い、成分分析にかかる時間を大幅に短縮しました
- 前面のタッチパネルにより主要な操作をすべて行うことができ、測定値の表示のほか、運転状況の監視やアラームの表示も行います



■エコ製品の売上比率

2016年度は、千葉、東京、鈴鹿、神戸、吹上の各工場で、正確性を高めるために対象となる自社製品売上高の内容を精査し、エコ製品登録を推進しました。

これらの活動の結果、2016年度、エコ製品の自社製品売上高に対する売上比率は75.5%で、目標（54%）を達成するとともに、最終目標の70%を達成しました。これにより、全社の集計活動は終了し、今後は新製品などのエコ製品の登録活動を継続します。

2016年度のスーパーエコ製品は、2機種追加の29製品となりました。

[🏠 ページの先頭へ戻る](#)